

# 平成30年度 環境活動レポート

(対象期間 2018年6月1日 ～ 2019年5月31日)



2019年8月3日  
篠崎木工株式会社

# ○ 目 次 ○

- 1.組織の概要
- 2.対象範囲
- 3.組織表
- 4.環境方針
- 5.環境目標
- 6.環境経営目標・活動計画及び実績表
- 7.環境目標の実績
- 8.環境負荷実績
- 9.環境活動の取組結果の評価、次年度の活動計画
- 10.環境関連法規等の遵守の状況確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
- 11.代表者による全体の評価と見直し指示

## 1.組織の概要

### 1) 事業者名及び代表者名

篠崎木工株式会社

代表取締役社長 戸叶 寛

### 2) 所在地

本社 栃木県佐野市大橋町1366番地  
石塚工場 栃木県佐野市石塚町568番地  
資材部 同上  
藤岡工場 栃木県栃木市藤岡町都賀1363番地  
足利工場 栃木県足利市寺岡町48番地1号  
宮城工場 宮城県加美郡色麻町四竈字大原217番地11号  
小山工場 栃木県小山市土塔560番地 (株)UACJ工場内

### 3) 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 足利工場 岡村 貴幸 tel 0284-90-2280 fax 0284-90-2281

事務局 石塚工場 味村 信也  
資材部 大島 紀和  
藤岡工場 畠山 常典  
足利工場 岡村 貴幸  
宮城工場 伊藤 祐司  
本社 牧野 和博

### 4) 事業内容

住宅用木製鋼製部材の製造販売、輸入木材の販売及び住宅関連設備の販売

### 5) 事業規模

売上高	5,426百万円 (平成30年度)		
従業員	209名 認証登録範囲対象事業所 184名		
敷地面積	本社	85㎡	足利工場 3,982㎡
	石塚工場・資材部	20,735㎡	宮城工場 8,517㎡
	藤岡工場	15,332㎡	小山工場 顧客工場内

## 2.対象範囲

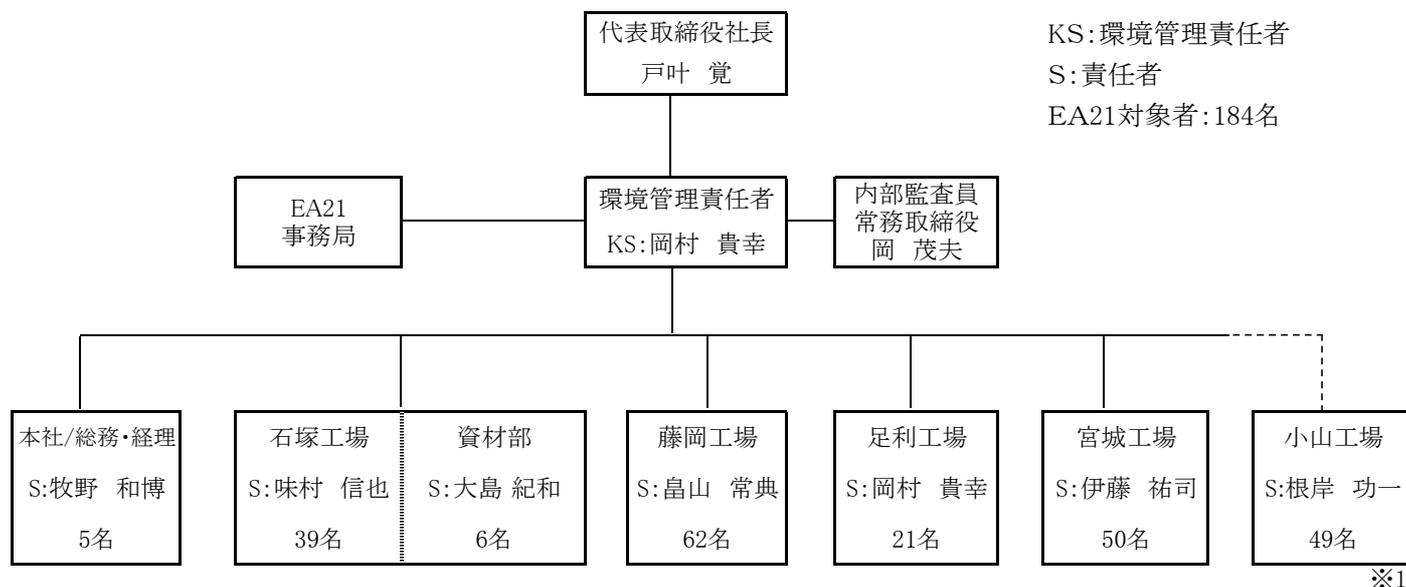
篠崎木工株式会社の住宅用木製鋼製部材の製造販売、輸入木材の販売及び住宅関連設備の販売に関わる全ての事業を対象とする。

認証登録サイト	石塚工場	・プレハブ住宅用木製部材の製造販売
	資材部	・輸入木材の販売、住宅関連設備の販売
	藤岡工場	・プレハブ住宅用木製部材の製造販売
	足利工場	・プレハブ住宅用木製部材の製造販売
	宮城工場	・プレハブ住宅用木製部材の製造販売、及び鋼製部材の製造販売
	本社	・経理、総務

顧客EMS管理下にある 小山工場 ・顧客工場内請負作業(アルミ製品の検査・梱包)

### 3.組織表

制定日： 2013年12月1日  
改定日： 2019年6月1日



※1 対象範囲外  
小山工場は顧客EMS  
管理下にある。

#### ◎役割・責任表

責任者	役割
社長	1 環境方針を制定する 2 環境管理責任者を任命する 3 環境経営システムの全体の評価と見直しを行う 4 推進に必要な要員、技術、資金等を準備する 5 課題とチャンスを確認にする
環境管理責任者	1 環境経営システムの取り組みの実行責任者として活動を推進する 2 環境経営システムに必要な文書及び記録を承認する 3 環境への負荷及び取組の自己チェックの実施リーダー 4 環境目標及び活動計画を策定し、承認する 5 環境目標及び活動計画の達成状況や実施状況の確認と評価を行い、社長に報告する 6 環境関連法規の取りまとめ、最新チェック及び遵守状況の確認する 7 代表者による全体の評価と見直しのための情報を報告する
EA21事務局	1 EMS全体の活動を確認し、高環境作りをサポートする 2 EMS共通書類(文書・記録)の原本管理を行う
内部監査員	1 内部監査を実行する
責任者	1 部門ごとの活動計画を策定し、達成状況、実施状況を把握し、環境管理責任者に報告をする 2 部門ごとの教育訓練の実施リーダー 3 外部からの苦情や要望のを受け付ける窓口 4 文書、記録を管理する
社員	1 活動計画の担当者として実行する 2 システムで定めたルール、取り組み事項を自発的、積極的に実施する

# 環境経営方針

当社は持続可能な木製部材の生産を通じて  
「調和のとれた快適環境の創造」を企業理念に  
社員一人ひとりが、未来の地球環境を考え  
今やるべき活動に取り組みます。

- (1)環境経営システムを構築し、維持向上に努めます。
- (2)環境経営に関わる活動を継続的に改善し、省エネルギー及び環境負荷の低減に努めます。
- (3)環境関連法規制およびその他の要求事項を順守します。
- (4)原材料である木材を大切に使用し、不良品を作る無駄を減らし、端材を有効利用します。
- (5)クリーンウッド法を適正に運用し、合法伐採木材の流通及び利用を促進します。
- (6)生産活動より発生する不用品は、分別することで廃棄物を削減する。
- (7)この環境経営方針は、社内外の人に周知するとともに広く開示します。

平成30年6月1日  
篠崎木工株式会社  
代表取締役社長

戸叶 寛

## 5.環境経営目標（平成28年度～平成30年度）

### 1) 石塚工場・資材部

	項目	平成27年度基準 (平成27年6月～ 平成28年5月)	平成28年度目標 (平成28年6月～ 平成29年5月)	平成29年度目標 (平成29年6月～ 平成30年5月)	平成30年度目標 (平成30年6月～ 平成31年5月)
二酸化炭素削減に 関係する項目	電気使用量 (単位:kWh/千万円)	3,971 → 4,480 ※1	基準年-1% 3,931	基準年-2% 4,390 ※1	基準年-3% 4,346 ※1
	ガソリン使用量 (単位:%/千万円)	22.94 → 36.49 ※1	基準年-1% 22.71	基準年-2% 36.00 ※1	基準年-3% 35.00 ※1
	軽油使用量 (単位:%/千万円)	141.16 → 153.54 ※1	基準年-1% 139.75	基準年-2% 150.00 ※1	基準年-3% 149.00 ※1
	二酸化炭素排出量 (単位:kg-CO2/千万円)	2267 → 2,747 ※1	基準年-1% 2,244	基準年-2% 2,692 ※1	基準年-3% 2,664 ※1
廃棄物削減に 関係する項目	一般廃棄物 (単位:kg/千万円)	9.105	基準年-1% 9.014	基準年-2% 8.923	基準年-3% 8.832
	産業廃棄物 木材 (単位:kg/千万円)	279 → 488 ※2	基準年-1% 276	基準年-2% 273	基準年-3% 473 ※2
	産業廃棄物 廃プラ (単位:kg/千万円)	7.51	基準年-1% 7.43	基準年-2% 7.36	基準年-3% 7.28
	水使用量 (単位:m3/千万円)	3.042 →3.548 ※3	基準年-1% 3.012	基準年-2% 2.981	基準年-3% 3.442 ※3
	化学物質使用量の制御 防腐液も客先指定濃度の維持	—	維持	維持	維持
	事業項目・輸入木材の不良率低減(単位:%)	6.90	基準年-1% 6.83	基準年-2% 6.76	基準年-3% 6.69

\* 電気の排出係数:0.505kgCO2/kWhを使用(平成27年公表の東京電力の排出係数)

\* 原単位は工場売上高当たりである。

\* ※1は設備の新設、増車により基準値の27年度とは状況が変化していることを踏まえて見直した。

\* ※2は樹種変更等の理由により、チップにできない産廃が増加したことを踏まえて見直した。

\* ※3は漏水の疑いが指摘されたが、工場内すべての漏水を確認することが現在不可能な為見直した。

5.環境経営目標（平成28年度～平成30年度）

2) 藤岡工場

	項目:(原単位/千万円)	平成27年度基準 (平成27年6月～ 平成28年5月)	平成28年度目標 (平成28年6月～ 平成29年5月)	平成29年度目標 (平成29年6月～ 平成30年5月)	平成30年度目標 (平成30年6月～ 平成31年5月)
二酸化炭素削減に関する項目	電力消費量 (単位:kWh/千万円)	3363	基準年-1% 3,329	基準年-2% 3,296	基準年-3% 3,262
	ガソリン消費量 (単位:ℓ/千万円)	4.96	基準年-1% 4.91	基準年-2% 4.86	基準年-3% 4.81
	軽油消費量 (単位:ℓ/千万円)	68.6	基準年-1% 67.91	基準年-2% 67.23	基準年-3% 66.54
	二酸化炭素排出量 (単位:kg-CO2/千万円)	1890	基準年-1% 1,871	基準年-2% 1,852	基準年-3% 1,833
廃棄物削減に関する項目	一般廃棄物排出量 (単位:kg/千万円)	12.818	基準年-1% 12.690	基準年-2% 12.562	基準年-3% 12.434
	産業廃棄物(合板) (単位:kg/千万円)	868	基準年-1% 859	基準年-2% 851	基準年-3% 842
	産業廃棄物 廃プラ (単位:kg/千万円)	22.42	基準年-1% 22.2	基準年-2% 21.97	基準年-3% 21.75
	水使用量の節減 (単位:m3/千万円)	2.975	基準年-1% 2.945	基準年-2% 2.916	基準年-3% 2.886
	化学物質使用量の制御	必要なSDSを入手し維持管理する			
	事業項目・カナダ製木材の不良率低減 (単位:%)	10.2	基準年-1% 10.1	基準年-2% 10.0	基準年-3% 9.9

\* 電気の排出係数:0.505kgCO2/kWhを使用(平成27年公表の東京電力の排出係数)

\* 原単位は工場売上高である

## 5.環境経営目標（平成28年度～平成30年度）

### 3) 足利工場

	項目	平成27年度基準 (平成27年6月～ 平成28年5月)	平成28年度目標 (平成28年6月～ 平成29年5月)	平成29年度目標 (平成29年6月～ 平成30年5月)	平成30年度目標 (平成30年6月～ 平成31年5月)
二酸化炭素削減に係る項目	電気使用量 (単位:kWh/千万円)	2,516	基準年-1% 2,491	基準年-2% 2,466	基準年-3% 2,441
	ガソリン使用量 (単位:ℓ/千万円)	12.29	基準年-1% 12.17	基準年-2% 12.04	基準年-3% 11.92
	軽油使用量 (単位:ℓ/千万円)	49.74	基準年-1% 49.24	基準年-2% 48.75	基準年-3% 48.25
	二酸化炭素排出量 (単位:kg-CO2/千万円)	1,431	基準年-1% 1,416	基準年-2% 1,402	基準年-3% 1,388
廃棄物削減に係る項目	一般廃棄物 (単位:kg/千万円)	5.011	基準年-1% 4.961	基準年-2% 4.911	基準年-3% 4.861
	産業廃棄物 木材 (単位:kg/千万円)	331	基準年-1% 328	基準年-2% 324	基準年-3% 321
	産業廃棄物 廃プラ (単位:kg/千万円)	461.00	基準年-1% 456.39	基準年-2% 451.78	基準年-3% 447.17
	水使用量 (単位:m3/千万円)	9.749	基準年-1% 9.652	基準年-2% 9.554	基準年-3% 9.457
	化学物質使用量の制御 防腐液も客先指定濃度の維持	—	維持	維持	維持
	事業項目 ・パネルの不良率を低減させる (単位:%)	0.0600	基準年-1% 0.0594	基準年-2% 0.0588	基準年-3% 0.0582

\* 電気の排出係数:0.505kgCO2/kWhを使用(平成27年公表の東京電力の排出係数)

\* 二酸化炭素排出量はH27年度の購入電力消費量(120,282kWh)に排出係数0.505を乗じた原単位

\* 原単位は工場売上高当りである

## 5.環境経営目標（平成28年度～平成30年度）

### 4) 宮城工場

	項目	平成27年度基準 (平成27年6月～ 平成28年5月)	平成28年度目標 (平成28年2月～ 平成29年5月)	平成29年度目標 (平成29年6月～ 平成30年5月)	平成30年度目標 (平成30年6月～ 平成31年5月)
二酸化炭素削減に関する項目	電気使用量 (単位:kWh/千万円)	2,825	基準年-1% 2,797	基準年-2% 2,769	基準年-3% 2,740
	ガソリン使用量 (単位:ℓ/千万円)	15.50 → 18.45 ※1	基準年-1% 15.35	基準年-2% 18.08 ※1	基準年-3% 17.9 ※1
	軽油使用量 (単位:ℓ/千万円)	77.00	基準年-1% 76.23	基準年-2% 75.46	基準年-3% 74.69
	二酸化炭素排出量 (単位:kg-CO2/千万円)	1,923	基準年-1% 1,904	基準年-2% 1,885	基準年-3% 1,865
廃棄物削減に関する項目	一般廃棄物 (単位:kg/千万円)	8.745	基準年-1% 8.658	基準年-2% 8.570	基準年-3% 8.483
	産業廃棄物 木材 (単位:kg/千万円)	1,019	基準年-1% 1009	基準年-2% 999	基準年-3% 988
	産業廃棄物 廃プラ (単位:kg/千万円)	100	基準年-1% 99	基準年-2% 98	基準年-3% 97
	水使用量 (単位:m3/人)	3.749 *12.56	基準年-1% 3.712	基準年-2% 12.300	基準年-3% 12.180
	化学物質使用量の制御 防腐液の客先指定濃度の維持	—	維持	維持	維持
	事業項目 ・内壁枠不具合の低減(単位:%)	0.59	基準年-1% 0.58	基準年-2% 0.58	基準年-3% 0.57

\* 電気の排出係数:0.591kgCO2/kWhを使用(平成26年度公表の東北電力の排出係数)

\* 原単位は工場売上高当りである

\* ※1 は平成29年1月から車の使用状況が変わった為、1～5月のデータを基にした基準値に変更した。

\* 水使用量を29年度から一人当たりの実使用量へ変更

5.環境経営目標（平成28年度～平成30年度）

5) 本社

	項目	平成27年度基準 (平成27年6月～ 平成28年5月)	平成28年度目標 (平成28年6月～ 平成29年5月)	平成29年度目標 (平成29年6月～ 平成30年5月)	平成30年度目標 (平成30年6月～ 平成31年5月)
二酸化炭素削減に 関係する項目	電気使用量 (単位:kWh)	16993 →14,881 ※1	基準年-1% 16,823	基準年-2% 14,583 ※1	基準年-3% 14,435 ※1
	ガソリン使用量 (単位:%)	6,950	基準年-1% 6,880	基準年-2% 6,811	基準年-3% 6,741
	灯油使用量 (単位:%)	84	基準年-1% 83	基準年-2% 82	基準年-3% 81
	液化石油ガス(LPG)使用量 (単位:kg)	23.88	基準年-1% 23.64	基準年-2% 23.4	基準年-3% 23.16
	二酸化炭素排出量 (単位:kg-CO2)	24,997	基準年-1% 24,747	基準年-2% 24,497	基準年-3% 24,247
削減廃るに棄 項関物 目係削	一般廃棄物 (単位:kg)	288	基準年-1% 285	基準年-2% 282	基準年-3% 279
	水使用量 (単位:m3)	96	基準年-1% 95	基準年-2% 94	基準年-3% 93

\* 電気の排出係数:0.505kgCO2/kWhを使用(平成27年公表の東京電力の排出係数)

\* 化学物質の使用はない為、目標として取り上げていない

※1 …… 取組の結果の明確化を図るため、メーターによる使用量を計上することとした。

## 7.環境経営目標の実績

全事業所、2018年6月～2019年5月の実績である。

### 1) 石塚工場・資材部

項 目	基準	実績	基準との差		評価
①電気使用量(kwh/千万円)	4,480	5,114	634	14.15%	未達
②ガソリン使用量(ℓ/千万円)	36.49	38.62	2.13	5.84%	未達
③軽油使用量(ℓ/千万円)	153.54	140.27	-13.27	-8.64%	達成
④二酸化炭素排出量(kg-CO <sub>2</sub> /千万円)	2,747	3,040	293	10.67%	未達
⑤一般廃棄物排出量(kg/千万円)	9.11	8.94	-0.166	-1.82%	達成
⑥産業廃棄物(木材)排出量(kg/千万円)	488	478	-10	-2.05%	達成
⑦産業廃棄物(廃プラ)排出量(kg/千万円)	7.51	102.6	95.11	1266.2%	未達
⑧総排水量(m <sup>3</sup> /千万円)	3.548	3.539	-0.009	-0.25%	未達
⑨化学物質使用量の制御(kg/千万円)	維持	維持	維持		維持
⑩輸入木材の不良率低減(%)	6.9	6.37	-0.53	-7.68%	達成

### 2) 藤岡工場

項 目	基準	実績	基準との差		評価
①電気使用量(kwh/千万円)	3,363	3,442	79	2.35%	未達
②ガソリン使用量(ℓ/千万円)	4.96	4.75	-0.21	-4.23%	達成
③軽油使用量(ℓ/千万円)	68.60	75.32	6.72	9.80%	未達
④二酸化炭素排出量(kg-CO <sub>2</sub> /千万円)	1,890	1,950	60	3.17%	未達
⑤一般廃棄物排出量(kg/千万円)	12.82	14.11	1.29	10.05%	未達
⑥産業廃棄物(木材)排出量(kg/千万円)	868	659	-209	-24.13%	達成
⑦産業廃棄物(廃プラ)排出量(kg/千万円)	22.42	75.92	53.50	238.63%	未達
⑧総排水量(m <sup>3</sup> /千万円)	2.98	19.94	16.96	569.06%	未達
⑨化学物質使用量の制御(kg/千万円)	維持	維持	維持		維持
⑩2×4材の不良率(%)	10.2	9.8	-0.4	-3.53%	達成

### 3) 足利工場

項 目	基準	実績	基準との差		評価
①電気使用量(kwh/千万円)	2,516	1,487	-1,029	-40.90%	達成
②ガソリン使用量(ℓ/千万円)	12.29	11.72	-0.57	-4.64%	達成
③軽油使用量(ℓ/千万円)	49.74	60.75	11.01	22.14%	未達
④二酸化炭素排出量(kg-CO <sub>2</sub> /千万円)	1,431	938	-493	-34.45%	達成
⑤一般廃棄物排出量(kg/千万円)	5,011	3,100	-1,911	-38.14%	達成
⑥産業廃棄物(木材)排出量(kg/千万円)	331	197	-134	-40.48%	達成
⑦産業廃棄物(廃プラ)排出量(kg/千万円)	461	389	-72	-15.62%	達成
⑧総排水量(m <sup>3</sup> /千万円)	9,749	3,584	-6	-63.24%	達成
⑨化学物質使用量の制御(kg/千万円)	維持	維持	維持		維持
⑩パネルの不良率(%)	0.0600	0.0344	-0.026	-42.67%	達成

### 4) 宮城工場

項 目	基準	実績	基準との差		評価
①電気使用量(kwh/千万円)	2,825	3,018	193	6.8%	未達
②ガソリン使用量(ℓ/千万円)	18.45	17.73	-0.72	-3.9%	達成
③軽油使用量(ℓ/千万円)	77.00	82.48	5.47	7.1%	未達
④二酸化炭素排出量(kg-CO <sub>2</sub> /千万円)	1,923	2,740	817	42.49%	未達
⑤一般廃棄物排出量(kg/千万円)	8,745	9,990	1,245	14.2%	未達
⑥産業廃棄物(木材)排出量(kg/千万円)	1019	1074	55	5.4%	未達
⑦産業廃棄物(廃プラ)排出量(kg/千万円)	100	273	173	173%	未達
⑧総排水量(m <sup>3</sup> /人)	12.56	10.86	-1.7	-13.5%	達成
⑨化学物質使用量の制御(kg/千万円)	維持	維持	維持		維持
⑩内壁枠不具合の低減(%)	0.59	0.02	-0.57	-96.6%	達成

## 5) 本社

項目	基準	実績	基準との差		評価
①電気使用量(kwh)	14,881	13,290	-1591	-10.69%	達成
②ガソリン使用量(ℓ)	6949.80	3865.57	-3084.23	-44.38%	達成
③灯油使用量(ℓ)	84.00	104.76	20.76	24.71%	未達
④液化石油ガス(LPG)使用量(kg)	23.88	7.10	-16.78	-70.27%	達成
⑤二酸化炭素排出量(kg-CO <sub>2</sub> )	24,997	16,254	-8,743	-34.98%	達成
⑥一般廃棄物排出量(kg)	288	268	-20	-6.94%	達成
⑦総排水量(m <sup>3</sup> )	96.0	81.7	-14.3	-14.90%	達成

\* 本社、石塚、藤岡、足利工場は電気の排出係数:0.505kgCO<sub>2</sub>/kWhを使用(平成27年公表の東京電力の排出係数)

\* 宮城工場は電気の排出係数:0.591kgCO<sub>2</sub>/kWhを使用(平成26年度公表の東北電力の排出係数)

8. 主な環境負荷実績(2015～2018年度)

			2015年	2016年	2017年	2018年
二酸化炭素排出量	電力使用量 単位:Kwh	藤岡工場	674,859	588,332	529,000	584,895
		石塚工場	580,956	602,555	550,415	578,121
		足利工場	120,282	104,451	98,926	86,278
		宮城工場	319,233	303,864	279,988	291,037
		本 社	16,993	17,442	14,709	13,290
		合 計	<b>1,712,323</b>	<b>1,616,644</b>	<b>1,473,038</b>	<b>1,553,621</b>
	化石燃料 ガソリン・軽油 単位:ℓ	藤岡工場	14,763	13,754	13,516	13,607
		石塚工場	24,007	25,361	25,430	20,220
		足利工場	2,965	3,705	4,233	4,205
		宮城工場	10,456	9,881	10,399	9,665
		本 社	7,034	4,772	5,063	3,985
		合 計	<b>59,225</b>	<b>57,473</b>	<b>58,641</b>	<b>51,682</b>
	二酸化炭素 単位:kg-CO2	藤岡工場	351,577	332,928	302,776	331,305
		石塚工場	331,631	369,436	343,377	343,689
		足利工場	63,452	62,333	60,931	54,459
宮城工場		217,286	207,774	195,364	264,252	
本 社		23,725	20,133	20,133	16,254	
合 計		<b>987,671</b>	<b>992,604</b>	<b>922,581</b>	<b>1,009,959</b>	
廃棄物排出量 単位:t	藤岡工場	196	198	231	129	
	石塚工場	43	44	61	58	
	足利工場	38	40	38	34	
	宮城工場	130	116	113	131	
	本 社	0.38	0.24	0.20	0.26	
	合 計	<b>408</b>	<b>398</b>	<b>444</b>	<b>352</b>	
総排水量 単位:m <sup>3</sup>	藤岡工場	597	1,400	1,991	3,388	
	石塚工場	445	404	441	400	
	足利工場	467	279	271	208	
	宮城工場	427	406	467	370	
	本 社	96	106	85	82	
	合 計	<b>2,032</b>	<b>2,595</b>	<b>3,255</b>	<b>4,448</b>	
化学物質使用量 単位:kg	藤岡工場	—	—	—	0	
	石塚工場	—	—	—	49	
	足利工場	—	—	—	232	
	宮城工場	—	—	—	144	
	本 社	—	—	—	0	
	合 計	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>425</b>	

## 9.環境活動の取組結果の評価、次年度の取組内容

### 1) 環境活動の取組結果の評価

#### ① 二酸化炭素排出量の削減

##### 石塚工場・資材部

・昨年未達成だった軽油消費量が削減することができたが、電気・ガソリン共に基準年度を上回ってしまったため、二酸化炭素排出量も増加してしまった。  
・電力使用量は基準4,480kWh/千円のところ実績が5,114kWh/千円と634kWh/千円増加してしまった。  
機械の老朽化とともに、同じタイミングで稼働すると大幅に消費することがある、ということがデマンドを設置することで把握できた。  
・ガソリン使用量は基準36.49L/千円のところ38.62L/千円と2.13L/千円の増加。大宮でのカプセルホテルの施工がH30.10月～R01.05月まで行われており、1台の社用車が施工現場へ行っていたことが考えられる。  
・軽油使用量は基準153.54L/千円に対して140.27L/千円と13.27L/千円減少することができた。課によってだが、フォークリフトで移動していたものを、台車を活用するようになり、フォークを使うときは事前に申請するなど、効率的に活用するようになったことが削減に繋がったと考えられる。

##### 藤岡工場

・電力消費量については基準 3,363 KWh/千円に対し、実績 3,442KWh/千円で+79KWh/千円、+2.4%で目標には届かなかった。主な要因は12月に古い集塵機装置を容量が大きい設備に入替えた事が挙げられ、馬力も大きなものになり、電力消費が増えた事が考えられる。その他にも昨年度と比較すると出荷量が増え、生産計画に沿って無駄な設備稼働時間を省いてきたが、時間数で見ると昨年を上回る状態が続いた為、目標を達成することが出来なかった。  
・ガソリン消費量については基準 4.96L/千円に対し、実績 4.75L/千円で-0.21L/千円、-4.2%の数値で目標達成となった。運転中のエコドライブやエコモード使用を始め、不用意な外出を行わなかったのが、結果として結びついている。又、乗り合い乗車やまとめたの用事足しなども要因として挙げられるが、一方で現場差し替え作業での使用は減少されていないのも事実である。  
軽油消費量については基準 68.60L/千円に対し、実績 75.32L/千円で+6.72L/千円、+9.8%で目標には8.78L/千円届かなかった。  
主な要因 は昨年と比較すると出荷量が増え、フォークリフトの稼働時間が増えた事が挙げられるが、フォークリフトの使用年数が7～8年経過し燃費が低下していることも要因として考えられる。しかしながら僅かではあるが材配時間の申請によって改善された事例もあった。

##### 足利工場

・基準 1,431kg-co2/千円に対し、実績938kg-co2/千円と-493kg-co2/千円、-34.5%と昨年よりも-1.5%削減することができた。環境への負荷の自己チェックの取りまとめ表の割合を見ても昨年の電力のCO2排出量約82.3%に対し、今年度は80%と2.3%下がった。その他ガソリンが2.3%→2.9%、軽油が15.2%→17.0%、LPGも0.09%→0.14%と電力以外はアップとなったしまった。

##### 宮城工場

・基準 1,923kg-co2/千円に対し 実績2,740kg-co2/千円と+808kg-co2/千円、42%のプラスになった。  
原因として、仕事量が基準年に対し10%ダウンした事により、仕事量確保の為、外注から内作への切り替えと新規設備導入で電気使用量が前年2,963kwh/千円に対し、3,018kwh/千円と1.9%増となってしまった。また廃プラの処分が有価から産業廃棄物となり大きくアップした。

##### 本社

・早朝の会議、来客等が多く応接室内温度維持の為、灯油使用量は昨年に引き続き削減が出来ず、昨年より削減したが目標に届かなかった。  
電気使用量も取組の結果-10.69%と達成した。ガス利用量も取組の結果-70.27%という大幅削減を達成した。  
結果、二酸化炭素排出量全体の数値は-35%と大幅に減少し目標を達成した。

## ② 廃棄物排出量の削減

### 石塚工場・資材部

・木材⇒10kg/千円削減 廃プラ⇒95.11kg/千円増加という結果になった。  
目標3%に到達することができなかったが、削減することはできた。  
基準年度まではなかった加工品や、長さの規格が決まっている製品出荷が増加傾向にあるため、カットした端材がでやすくなっている。  
現時点では出荷量に応じて端材の量も増減する。  
廃プラに関しては、処分できずに溜まってしまっているものを随時処分し始めた。基準年度との比較は不可能となってしまった。

### 藤岡工場

・産業廃棄物の木材(合板)については基準 868kg/千万円に対し、実績 659kg/千万円で-209kg/千万円、-24.1%と目標を大きく上回る達成率となった。その背景には昨年処理出来ない木材を産業廃棄物として搬出したことが解消され、原板サイズの見直しによる端材量の減少、規格外の再加工などを含めて全体的に排出量を減少させた事が背景にある。廃プラについては基準 22.42kg/千万円に対し、42.73kg/千万円と+33.19kg/千万円、+248%と目標にはほど遠い結果となった。樹脂系の中国への輸出が規制され又、国内でもリサイクル出来ずに、廃プラ量の搬出が増えた状況である。PPバンド等の社内利用は引き続き行っているが、効果としては

### 足利工場

・一般廃棄物については基準 5.011 kg/千万円に対し実績 3.100 kg/千万円と-1.911 kg/千万円、-38.1%と削減できたが昨年と比較して+7.4%となった。要因として品質不具合対策としてリストの追加や両面から片面印刷への見直し等でペーパー使用量が増えたことが考えられる。  
・木材については基準 331 kg/千万円に対し実績 197 kg/千万円と-134kg/千万円、-40.5%を達成した。要因としては端材を他工場へ転用してもらうなどを心掛けた結果だと思う。  
・断熱材については基準 461.00 kg/千万円に対し、実績 389 kg/千万円と -72 kg/千万円、と-15.5%で達成となった。

### 宮城工場

・木屑については、今期よりスタートした軒先母屋と、床パネルの生産に伴い、前期998kg/千万円に対し1073kg/千万円と7.5%増  
再度 現状の作業方法を把握し 排出量削減方法を検討し、削減する。

### 本社

・昨年度に引き続き他部署との書類のやり取りをデータ化するなどの取組みを行っており、目標の-6.94%減を達成した。  
但し法改正による従業員への通知説明資料の印刷等の特殊要因により、昨年度に比べると2割近く増加してしまった。

### ③ 水使用量の削減

#### 石塚工場・資材部

・基準と比べて0.009m<sup>3</sup>/千万円減少、ほぼ横ばいだった。漏水が見受けられるところは修理をした。漏水を修理して横ばいであるため、もう少し従業員の意識自体を向上させる必要があると感じた。

#### 藤岡工場

・基準 2.975m<sup>3</sup>/千万円に対し、19.938m<sup>3</sup>/千万円と+16.963m<sup>3</sup>/千万円、+570%と大きく増加へ。埋設されている古い水道管からの漏水と見られるのが原因なので現在工事を予定中である。他の大きな要因として9月に4工場屋根の遮熱塗装した際の洗浄や12月の集塵機装置入替に伴うサイロ解体時に粉塵対策で水を大量に使用したことが原因として考えられる。

#### 足利工場

・基準 9.749m<sup>3</sup>/千万円に対し、3.584m<sup>3</sup>/千万円と-6.165m<sup>3</sup>/千万円、-63%なった。要因としてボンド塗布器を導入したことで攪拌時や容器の洗浄で使用していた水がほとんど使われなくなった効果もある。

#### 宮城工場

・基準年 12.56m<sup>3</sup>/人に対し、10.86m<sup>3</sup>/人と-1.69m<sup>3</sup>/人 -13.5%と達成する事ができました。一人一人が、節水への意識、行動が習慣になって来たと思います。また 夏場の長雨で花壇への水やりも ほとんど無かったのが要因と思います。

#### 本社

・基準に対して-14.90%削減となり、さらに昨年使用量84.6m<sup>3</sup>と比べて81.7m<sup>3</sup>となり、僅かですが-2.9m<sup>3</sup>の削減となりました。節水意識が定着しており、続けて成果が出ているので、継続して節水の取組みに努めていきたい。

#### ④ 化学物質使用量の制御

##### 石塚工場・資材部

・防腐済みのサンプルをコシイプレザービングへ郵送し検査している。  
客先指定濃度を維持できている。

##### 藤岡工場

・購入品に対する化学物質の把握から必要なSDSを入手し管理台帳を付けることによって維持管理を行った。又、定期的に担当者との取り扱いについての説明を行い、適切な方法で使用する事が出来た。

##### 足利工場

・基準2.861kg/千万円に対し3.586kg/千万円と約増えているものの他事業所の防腐作業が増えていることも踏まえれば使用量としては特に問題ない数量で維持していると考えている。

##### 宮城工場

・毎月1回 防腐済みの試験片を検査機関へ郵送し薬剤の使用量が適正か否かを検査し、管理しています。引き続き、使用量を適正な管理を行い、過剰な使用は、絶対行わない。

#### ⑤ 事業項目

##### 石塚工場・資材部

・目標に対し不良低減率が、基準：6.90%から実績：6.37% -0.53%削減出来た。樹種変更が大きな要因と考えられる。  
現在も樹種変更を継続している。

##### 藤岡工場

・目標に対し不良低減率が-0.1%程低下した。背景には製品基準に対して担当者への教育を重ねたこともあり、今まで使用不可の物を使用可にすることによって不良率の低減につながった。一方で現地に対して現状の状況から要求等を重ねてきたが、粗悪品の混入はほぼ横ばいの状態が続いている。

##### 足利工場

・基準0.060%/千万円に対し0.034%/千万円で達成となった。今期は試作を行う時に事前に転用、処分方法を決めていた為、処分するパネルも減ったと思う。

##### 宮城工場

・内壁枠生産不具合率が、基準の0.59%から0.02% -96%と大きく削減できた。作業者が、チョコ停を異常と認識し、原因追及と対策に取り組んだり、工程の前後で不具合情報の交換が密になり原因を潰した結果と認識します。

## ⑥ その他

### 石塚工場・資材部

・昼食後の10分間清掃は各チームとも意見を出し合って5Sが推進できているため、今後も継続して行っていく。R01.12月にレイアウト変更を計画

### 藤岡工場

・5S活動を通じて、不要な物が撤去され、物の位置が固定された状態になり、識別管理が出来る様になった場所もあるが、そうでもない場所も見受けられた。又、繁忙期になると整理・整頓された物が元の姿に戻ってしまう傾向である。

### 足利工場

・今期もをビフォーアフター継続して5S活動を行ってきた。その中で分別ごみのチェックなどを行う事が出来た。

### 宮城工場

新規作業対応で、部署の変更や新メンバーの配置があったので、ベテラン社員からの安全教育と環境配慮の指導を推進し、目標達成に向けて活動して行きます。

### 本社

・。事務用品の在庫調整や収納の位置変更を行い整理整頓が出来てきた。用品の注文回数も月1~2回とまとめて行うことで在庫調整がスムーズに行う仕組みが出来た。

これまでは共有している在庫を整理してきたが、今後は各自が担当している書類についても再確認の上、整理していきたい。

## 10.環境関連法規等の遵守の状況確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

全工場および本社は、2019年6月中に環境関連法規等の遵守状況を確認した結果違反は有りません。  
尚、関係当局からの違反の指摘も過去5年間無く、訴訟等も過去に1件も有りません。

## 11.代表者による全体の評価と見直し指示

全体についての評価、今後への指示事項

- |   |
|---|
| 1、取組みがマンネリ化していないか？全体で確認をすること。<br>・フォークリフト運転の再教育、デマンド等の使用確認により個人の参加意識向上に繋がっていると思える。<br>・取組み内容のマンネリ化が続いている。外部講習等を活用し新たなテーマUPが必要。<br>今期中に情報収集し来期の取組に反映してほしい。 |
| 2、廃プラは有価販売から産廃へと環境にも経営にも負担である。有効的な再利用を検討する。<br>・現状産廃処理。引続き有効な再利用を検討する。  |
| 3、石塚工場については今期中にLED照明を検討する。<br>・本年12月設置で進行中。電力削減に期待する。   |

全体： 更なる活動を進めるためにポスター・垂れ幕等の掲示物の活用を検討する。

環境経営方針	・環境方針は変更せずに継続します。
環境経営目標及び環境経営計画	・開始6年目であり基準年-0.5%を継続する。
実施体制	・実施体制は変わらず継続する。本年度より内部監査において複数名による審査を実施。他工場との違いが分かりやすく次年度以降も継続していく。